第18回国際歯周内科学研究会

大阪大会　抄録

会　期：令和3年(2021年)4月18日(日)
会　場：千里ライフサイエンスセンター
大会長：森浦　弘行
大会テーマ
「口腔機能低下に立ち向かう」

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology

一般社団法人
国際歯周内科学研究会

目　次

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology

●代表理事挨拶 ―― P2

●会場案内 ―― P3

●日程表 ―― P4

●招待講演1

「飲食し続けられる口腔へのアプローチ」
ターミナルまでの歯科の役割 ―― P5

村田歯科医院　院長　黒岩　恭子　先生

●招待講演2

「生田式０から始める口腔育成のススメ」
～保育関係者が歯科医師から本当に教えてもらいたい3つのこと～ ―― P7

生田歯科医院　院長　藤原　康生　先生

●理事講演

「令和3年度介護保険改定とその対応」 ―― P8

国際歯周内科学研究会　常務理事　生田　図南　先生

●特別WEB講演

「口腔機能と嚥下・呼吸との関わりを
機能解剖学の立場から読み解く」 ―― P9

徳島大学　名誉教授
森ノ宮医療大学　教授　北村清一郎　先生

「お願いとお知らせ」

●大阪会場ご参加の皆さんへ

◇録音・録画・写真撮影はご遠慮ください。万一、発見した場合はデータを消去の上、退場して頂く場合もございます。

◇携帯電話・スマホは、電源をお切り頂くか、マナーモードにしてください。

●ライブ配信参加の皆さんへ

◇録音・録画・写真撮影はご遠慮ください。

◇一斉送信されたアドレスより当日ご参加下さい。

◇「当日配布資料」は一斉送信されたメールよりダウンロードしてください。

第18回　国際歯周内科学研究会学術大会　ご挨拶

一般社団法人 国際歯周内科学研究会　代表理事　津島　克正

平素より歯周内科学研究会の活動や運営にご協力いただきありがとうございます。
昨年予定されていた学術大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のためにやむなく1年間の延期となりました。残念ながら新型コロナウイルス感染は収束には至らず、未だに色々な場面で自粛や制限が強いられていますが、そのような状況でも感染対策の徹底により、新しい生活様式のもと社会活動も徐々に取り戻す方向に向かっております。

森浦弘行大会長のご努力と、講師の先生方のご理解ご協力の下のもと、予定通り千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市）にて第18回国際歯周内科学研究会大阪学術大会を開催することができるようになりました。
会場では感染対策を徹底し、また、ご心配な場合はWeb配信でもご参加いただけるようにいたしました。
テーマは「口腔機能低下に立ち向かう」です。これからの歯科医療の大きな柱になる問題です。まさに今必要とされる学びを、最高の講師から得られる貴重な一日となります。

以下、森浦大会長からの講師紹介です。

1.招待講演「飲食し続けられる口腔へのアプローチ」ターミナルまでの歯科の役割

村田歯科医院　院長　黒岩恭子先生　神奈川県茅ヶ崎市開業

訪問診療の分野ではレジェンド的な御存在です。老年期の口腔機能低下について摂食・嚥下に関わる訪問診療を20年以上に渡って実施され「食べられる口になる」口腔リハビリを体現されている先生です。
本大会ではより実践的なお話をお聞きできると大変期待しております。

2.招待講演「生田式0から始める口腔育成のススメ」
～保育士が歯科医師から本当に教えてもらいたい3つのこと～

藤原康生先生　生田歯科医院　院長

ケアマネジャーや保育士の資格も持っておられる藤原先生は生田歯科医院で高齢者施設への訪問診療もバリバリこなしておられますが、小児の口腔育成の分野でも積極的に臨床・セミナーを行っておられます。今回は小児の口腔育成に絞ってお話ししていただきます。大変楽しく且つ勉強になる講演になると思いますので御期待ください。

3.理事講演「令和3年度介護保険改定とその対応」

生田　図南先生　国際歯周内科学研究会　常務理事

令和3年度年介護保険改定では、歯科訪問診療において、非常に大きな改定が実施される予定です。その中でも介護施設における口腔衛生管理、摂食支援の義務化への対応や、平成30年保険改定で可能になった歯科訪問診療におけるSPTなど、昨今の訪問診療における大きな波について請求点数から衛生士さんへの待遇なども含めて解説していただきます。

4.特別WEB講演（注：後日オンデマンド配信）
「口腔機能と嚥下・呼吸との関わりを機能解剖学の立場から読み解く」

北村清一郎先生　徳島大学　名誉教授　森ノ宮医療大学　教授

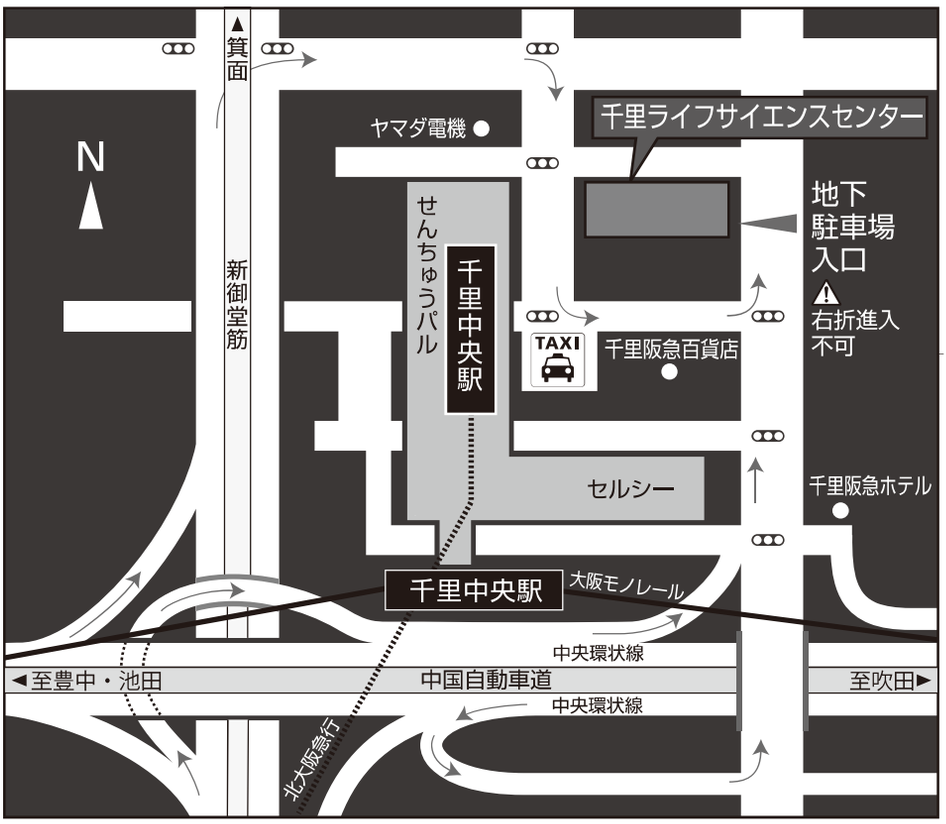
ISP
International Society
of Systemic Antibiotic Therapy
in Periodontology

膨大な著書の中には黒岩先生との共著も多数です。「摂食・嚥下機能に関わる解剖構造の肉眼解剖学的研究」の第一人者でありながら、ユーモアを交えた分かりやすい解説と飾らないお人柄から女性歯科医師にもファンの多い先生です。総義歯印象など一般臨床に役立つ解剖学の知識を得るために先生の著書をバイブルにしている先生も沢山おられます。

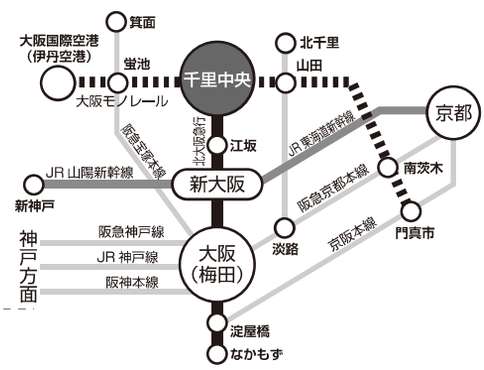
会場案内

Life Science Center

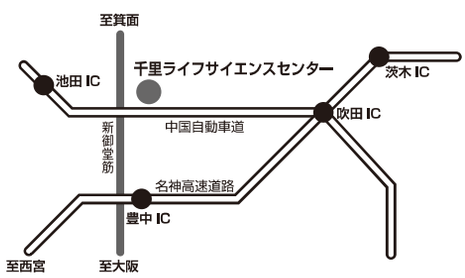
千里ライフ サイエンス センター
Access Map



電車でお越しの方



お車でお越しの方



● 地下鉄（北大阪急行電鉄）

御堂筋線　千里中央行き　終点・千里中央下車（北出口すぐ）

● 伊丹空港からお越しの方

大阪モノレール　門真市行き　千里中央下車（徒歩約５分）

● 関西国際からお越しの方

（１）ＪＲ

ＪＲ新大阪駅から地下鉄御堂筋線　千里中央行きにお乗換えください。

（２）南海電気鉄道

難波駅から地下鉄御堂筋線　千里中央行きにお乗換えください。

● お車でお越しの方

新御堂筋線（国道４２３号線）または、中央環状線をご利用ください。

中国自動車道　吹田ＩＣより約１０分

※上記はあくまでもめやすです。渋滞などの諸事情により異なります。ご注意ください。

千里ライフサイエンスセンター
５Ｆ リザベーションオフィス
〒560-0082　大阪府豊中市新千里東町１丁目４番２号
Tel.06-6873-2010　Fax.06-6873-2011
URL http://www.senrilc.co.jp/
Life Science Center

《2021年4月18日（日）大阪学術大会日程表（予定）》

9:00	大阪会場受付開始　サイト開場入室開始
9:30～9:40	大 会 長　森浦　弘行　挨拶 代表理事　津島　克正　開会の辞
9:40～11:10	● 招待講演1 **「飲食し続けられる口腔へのアプローチ」** **ターミナルまでの歯科の役割** 村田歯科医院　院長　**黒岩　恭子**　先生
11:10～11:15	代表理事　津島　克正　謝辞
11:15～11:25	休　　憩
11:25～12:55	● 招待講演2 **「生田式0から始める口腔育成のススメ」** **～保育士が歯科医師から本当に教えてもらいたい3つのこと～」** 生田歯科医院　院長　**藤原　康生**　先生
12:55～13:00	代表理事　津島　克正　謝辞
13:00～14:00	昼　休　み
14:00～14:20	認定衛生士表彰 行事案内
14:20～15:50	● 理事講演　国際歯周内科学研究会　常務理事　**生田　図南**　先生 **「令和3年度介護保険改定とその対応」**
15:50～16:00	事務連絡（質問はメールで当日事務局に届いたもののみ受付）
16:00	閉会の辞

2021年5月1日～5月31日：後日オンデマンド視聴

● 特別WEB講演

「口腔機能と嚥下・呼吸との関わりを
機能解剖学の立場から読み説く」

徳島大学　名誉教授
森ノ宮医療大学　教授　**北村清一郎**　先生

招待講演1

「飲食し続けられる口腔へのアプローチ」
ターミナルまでの歯科の役割

村田歯科医院　院長　黒岩　恭子 先生

誰しもが予測しなかった超高齢社会のまっただの中で、様々な深刻な問題が山積みの昨今です。歯科医院から外へ出かけてみると口腔の環境が悪いだけではなく、様々な疾患を併発(感染症や認知症、障害等)していて、それらが心身の機能低下を起こし口から飲食することを増々困難な状態になっている現状に遭遇することが多くなりました。

30数年前から在宅往診に行っていた頃は対象となる患者さん自身が今ほど重度化していなく、適切な歯科治療のみで飲食できる口腔に改善する場合がほとんどでした。

しかし、年月が経過すると共に高齢者の口腔状況が重度に変化しはじめたことに気づいたのは往診の範囲が広がり、在宅・施設・病院・デイサービス・グループホーム等々に出かけるようになってからのことでした。

多方面の現場では歯科単独で解決できない問題点が多々あり、医科・歯科そして多(他)職種連携が必須だと痛感しました。

そしてこの数年間は全国的に重度化に陥り、今後の高齢化に対して歯科医療従事者はどのように時代の要請に対応しなければならないかを、今一度考えてみる必要があると思っています。

重度化の現状は

・超高齢化したこと

・単独の疾患ではなく複数の疾患を持っている。この現状に対して多剤薬の投薬障害や認知症を合併している

等々があげられます。

患者さんが現状から「維持安定」もしくは「少しでも改善」されるよう、それぞれの〝地域で共に生きる〟ことを柱に据えて、臨床の現場を大切にしながら臨床力で患者さん、御家族に寄り添い尽くしている姿を、事例を通してお聞きいただきたいと思います。

以上の状況を踏まえて、皆々様と歯科医療従事者のあるべき姿をディスカッションしながら研修させていただきたいと考えています。

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology

略歴：和歌山県生まれ

1964年　日本女子衛生短期大学卒業
1970年　神奈川歯科大学卒業
1975年　神奈川県茅ケ崎市にて開業　現在に至る

論　文

＊食べられる口づくり　口腔ケア＆義歯
医歯薬出版　　2007/12/5
加藤武彦・黒岩恭子・田中五郎編

＊黒岩恭子の口腔リハビリ＆口腔ケア
デンタルダイヤモンド社　　2010/4/1

＊黒岩恭子の口腔ケア
デンタルダイヤモンド社　　2011/3/1

＊なぜ「黒岩恭子の口腔ケア・口腔リハビリ」は食べられる口になるのか
デンタルダイヤモンド社　　2013/3/1
編・著：北村清一朗

＊解剖から学ぶ　口腔ケア・口腔リハビリの手技と、その実力
デンタルダイヤモンド社　　2019/4
監修・執筆：　北村清一郎　　編集・執筆：黒岩恭子

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology

招待講演2

生田式0から始める口腔育成のススメ

～保育関係者が歯科医師から本当に教えてもらいたい3つのこと～

医療法人社団　南生会　生田歯科医院　院長　藤原　康生 先生

「人の顔」「歯並び」を変えたのは何か？発達障害、肥満症、熱中症、不眠症、メガネの子どもが増え続けているのはなぜなのか？日本やタイで子どもたちの様々な問題に真正面から取り組まれている生田先生のご指導の下、現在、保育関係者に対して生田歯科で行っている「噛む食育」通して、これらの問題を徹底解析し、根本的な解決方法を具体的に解説します。現在、生田歯科医院には保育士国家資格を有する歯科医師2名、歯科衛生士1名が在籍しています。歯科医師は、全国の保育園やこども園でどのような保育や食育が行われているかを十分に知っておく必要があると感じています。子どもの口だけに注目するのではなく、全身の中の口腔がどうあるべきか、口腔や摂食機能が全身にどのように影響しているのかを保育の視点から吟味することで、子どもたちの口腔育成の問題点が明確になるという生田先生の考えに賛同し、3人は保育士国家資格を取得したのです。保育の先生たちは子どもたちの食事に大変困っておられます。「チュチュ食べ（吸い食べ）」「頬にため込んで飲み込まない」など摂食機能に問題がある子どもが大変多くなっているのです。今では熊本県を中心に保育所の設立に関わらしていただいたり、保育関係者の勉強会で生田式口腔育成法を紹介させていただいています。歯科関係者が保育業界に介入することが子どもたちの未来を救うという生田先生の理念を生田歯科でどのようにアプローチし、保育関係者に何を話しているのかを歯周内科学研究会の皆様が今後保育業界に進出していただけるよう保育士資格取得方法も交えてご紹介します。

略　歴

平成12年　九州歯科大学卒業

平成20年に介護支援専門員資格取得後生田歯科医院にて、主に高齢者の摂食嚥下を担当。平成30年に保育士資格を取得してからは「噛む食育」が虫歯、歯並び、肥満、脳の発達だけでなく、高齢になった時の健康にも大きく関与していることを、熊本県のみならず全国の保育関係者に知っていただけるよう講演活動を行っている。

1971年9月7日生まれ　熊本県球磨郡多良木町出身

「こどもの栄養」児童育成協会出版にて「口腔育成のススメ」連載中

所属・役職

歯科医師・保育士・介護支援専門員

日本摂食支援協会　評議員・指導医

顎顔面機能咬合研究会　指導医

チャイルデント養成講座　指導医

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology

理事講演「令和3年度介護保険改定とその対応」

2021年介護保険改定において、歯科医院は何をすべきか

国際歯周内科学研究会　常務理事　生田　図南 先生

①介護施設に今回の介護保険改定で何が起きるのか、その対応法と具体的に行う事項を説明できるようにする。2021年介護保険改定は介護保険が制度として発足して以来、最大の改定になります。特に歯科関係においては、画期的な改定となっています。

画期的な改定とは

介護施設は利用者様の口腔衛生管理と摂食支援を施設基準として行わないといけないことになります。（3年間の猶予期間あり）

↓

介護施設はその取り組みを国に一人一人、電子的に報告する義務が課せられます。

↓

その報告の一つに誤嚥性肺炎の発症履歴を記載しないといけなくなります。

↓

誤嚥性肺炎の発症が多い施設、少ない施設がデータとして出るようになります。

↓

誤嚥性肺炎の発症率が高い介護施設にはペナルティーが課せられる可能性があります。

②歯科の介入によって、介護施設が算定できる介護単位の説明ができること

○口腔衛生管理加算について

○経口維持加算Ⅰ・Ⅱについて

③具体的な歯科の介入について

○アセスメントについて

○ミールラウンドの目的と具体的に何を見て何を指示できるか

○ポジショニングの問題点

○食事介助の問題点

○食事内容のUPが可能か、現状維持か、レベルを下げるべきかどうかの説明、具体的な目標について説明できるスキル

○管理栄養士と話し合いができるスキルの獲得

○同意書の作成と歯科医院側がご家族様に送付する書類の作成等行うことの説明（郵送準備まで含めて）

④治療についての説明

○食塊形成できる口腔を作る歯科医師としての技量習得

○誤嚥性肺炎を予防できる微生物の少ない口腔にする歯科医院としての技量習得

○専門的口腔ケアの提案

○上記を実施できる歯科衛生士の教育

などが必要となります。

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology

特別WEB講演

口腔機能と嚥下･呼吸との関わりを機能解剖学の立場から読み解く

徳島大学　名誉教授
森ノ宮医療大学保健医療学部教授　北村清一郎 先生

咀嚼時、食塊形成時、食塊移送（Stage Ⅰ移送とStage Ⅱ移送）時のみならず嚥下咽頭期においても、口腔機能は重要な役割を果たす。

嚥下咽頭期の機能に密接に関わる口腔領域の機能状態として、口唇の閉鎖、上・下顎の固定、舌と口蓋の接触、鼻咽腔閉鎖が挙げられる。嚥下咽頭期を通して口唇閉鎖と鼻咽腔閉鎖は続けられ、舌背は口蓋に押し付けられたままである。食塊が咽頭から食道に移送されるに際して、口腔や鼻腔への食塊の逆流を防ぐための重要な手立てである。口唇を開いたまま、あるいは舌を口蓋に押し付けない状態での嚥下が困難な理由はここにあるが、口腔への逆流を防ぐ一番の立役者は口唇閉鎖である。

また嚥下開始時、舌骨と喉頭は上前方に挙上される。この動きは、舌背の硬口蓋への押しつけ強化、舌根の後方移動、喉頭口の閉鎖、食道入口部の開大といった、嚥下咽頭期の他の動きの前提をなすが、舌骨上筋群が舌骨・喉頭を挙上させるには、咀嚼筋の作用で下顎が上顎に対して固定されている必要がある。歯と歯を噛み合わせない状態での嚥下も多少困難になる。

口腔機能は呼吸機能とも深く関わる。口呼吸の弊害が近年多く語られるようになってきた。鼻腔での通気抵抗が大きいことから、口が開いていると空気は自ずから口腔を通るようになり、口呼吸となる。鼻呼吸時には口峡は閉ざされ、空気が口腔へ流れないようになっているが、この場合も立役者はやはり口唇閉鎖である。おもしろいことに、鼻づまり状態であっても口呼吸時には鼻咽腔は閉鎖されている。鼻咽腔と口峡の2箇所のバルブの開閉が異なる組み合わせで、嚥下のみならず、呼吸機能にも関連している。また、下咽頭での気道は舌根の前方移動で拡がり、後方移動で狭まる。睡眠時無呼吸症候群を考える上で重要なことである。低位舌と口呼吸との関わりも多く語られている。

本講演では、口腔機能と嚥下・呼吸機能の関わりのメカニズムを、口腔顎顔面機能形態学の立場から解説したい。

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology

略 歴

北村清一郎 （きたむら　せいいちろう）

出身地	大阪府堺市
1975年3月	大阪大学歯学部卒
1975年4月	大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座助手
1975年6月	歯科医籍登録（第67536号）
1981年5月	博士号受領（歯学博士）
1981年7月	大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座講師
1982年11月	大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座助教授
1993年5月	徳島大学歯学部口腔解剖学第一講座教授
2004年4月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔顎顔面形態学分野教授
2015年4月	森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科教授 徳島大学名誉教授

◎主な著書（本講演関連）

- **「臨床家のための口腔顎顔面解剖アトラス」**
  （編著、医歯薬出版、2009年）

- **「なぜ「黒岩恭子の口腔ケア＆口腔リハビリ」は食べられる口になるのか」**
  （編著、デンタルダイヤモンド社、2013年）

- **「解剖から学ぶ口腔ケア・口腔リハビリの手技と、その実力」**
  （監修・共著、デンタルダイヤモンド社、2019年）

issap
International Society
Of Systemic Antibiotic Therapy
In Periodontology